

32. 国立加古川病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成12年12月1日
 移譲先 財団法人甲南病院
 移譲後の名称 財団法人甲南病院加古川病院

区分	国立加古川病院	財団法人甲南病院加古川病院
病床数	平成12年7月現在 300床(322床) [一般250、結核72]	平成12年12月現在 250床[一般150、療養型病床群100]
診療科	平成12年7月現在 内科、呼吸器科、循環器科、小児科、外科、 整形外科、皮膚科、産婦人科、眼科、耳鼻咽 喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯 科、麻酔科 (14科)	平成12年12月現在 内科、循環器科、小児科、外科、整形外科、 皮膚科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビ リテーション科、放射線科、麻酔科 (12科)
職員数	平成12年7月現在 189人 うち 医師 18人 看護職員 111人	平成12年12月現在 217人 うち 医師 17人 看護職員 127人
患者数	平成11年度一日平均 入院患者数 253.3人 外来患者数 419.2人	平成12年12月～平成13年5月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成11年度一月平均 137.9人	平成12年12月～平成13年5月一月平均

(注)国立加古川病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

財団の創立者の精神である「真に病人のための医療」を基本に、国立加古川病院の担ってきた医療はもとより、保健、医療、福祉の連携を強化した包括的な医療が実践できる財団法人甲南病院加古川病院を設立し、加古川北部地域で信頼される中核的医療機関として、住民の健康と生命を守るべく、地域医療のニーズに対応した運営を行う。

1. 地域の中核的医療機関として必要な診療科を設置、包括医療体制（保健・医療・福祉）を実施するため、医療相談室を設置し、保健・医療・福祉関係機関との連携を推進。
2. がん疾患に対し、最新の医療機器による高度な放射線治療の実施。
3. 国立加古川病院が構築したリウマチ性疾患を中心とする広域医療ネットワークを継承し、専門外来の設置、地域在宅ケアの支援やリウマチ性疾患の啓蒙活動を展開。
4. 平成13年度中に地域に不足する血液透析機能を整備。
5. 救急告示病院の指定を受け、病院群輪番制病院として第二次救急医療を実施。

33. 国立伊東温泉病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成13年3月1日
 移譲先 伊東市（伊東市は病院運営を地域医療振興協会に管理委託）
 移譲後の名称 市立伊東市民病院

区分	国立伊東温泉病院	市立伊東市民病院
病床数	平成12年7月現在 220床(250床)[一般250]	平成13年3月現在 250床[一般250]
診療科	平成12年7月現在 内科、外科、整形外科、産婦人科、リハビリテーション科、放射線科 (6科)	平成13年3月現在 内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科 (11科)
職員数	平成12年7月現在 177人 うち 医師 12人 看護職員 100人	平成13年3月現在 184人 うち 医師 27人 看護職員 114人
患者数	平成11年度一日平均 入院患者数 177.3人 外来患者数 321.2人	平成13年3月～平成13年8月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成11年度一月平均 111.3人	平成13年3月～平成13年8月一月平均

(注)国立伊東温泉病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

伊豆東海岸の地域医療の基幹的施設としての役割が担えるよう医療機能を整備充実する。

1. 二次医療を基本とし、緊急性や発生頻度の高い専門医療に対するとともに、一次医療分野についても対応する。
2. 地域医師会・地域医療機関との相互連携の保健医療に関する技術・情報の交換等について、積極的に取り組む。
3. 国立伊東温泉病院が保有するリハビリ機能を有効に活用し、入院から在宅までの段階的治療が行える施設及び機能を果たす。
4. 保険予防分野の検診・短期人間ドック等に幅広く積極的に対応するとともに、行政的に展開する保健・医療・福祉の一体的運営に積極的に寄与する。
5. 在宅医療の拠点施設として、市内医療機関による在宅医療に対する後方支援機能を果たす。

34. 国立療養所湯田川病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成13年3月1日
 移譲先 鶴岡市（鶴岡市は病院運営を鶴岡地区医師会へ管理委託）
 移譲後の名称 鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院

区分	国立療養所湯田川病院	湯田川温泉リハビリテーション病院
病床数	平成12年10月現在 100床（150床）[一般100、結核50]	平成13年3月現在 120床[療養型病床群120] (医療保険適用79床、介護保険適用41床)
診療科	平成12年10月現在 内科、リハビリテーション科 (2科)	平成13年3月現在 内科、リハビリテーション科 (2科)
職員数	平成12年10月現在 65人 うち 医師 3人 看護職員 28人	平成13年3月現在 70人 うち 医師 3人 看護職員 28人
患者数	平成11年度一日平均 入院患者数 40.9人 外来患者数 16.9人	平成13年3月～平成13年8月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成11年度一月平均 2.0人	平成13年3月～平成13年8月一月平均

(注)国立療養所湯田川病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

地域住民に良質な医療を提供し信頼される病院とし、医療・保健・福祉政策の推進を積極的に図り、地域住民の健康福祉の増進に寄与する。

1. 近隣の基幹病院、診療所、福祉施設等との連携と機能分担を図り、かかりつけ医による在宅医療の推進、地域医療体制の強化に貢献する。
2. 湯田川温泉を有効活用するとともに、長期療養にふさわしい療養環境の確保に努める。
3. 天然温泉を活用したリハビリテーション医療の充実。
4. 慢性期医療、介護力を強化した医療の充実。
5. 健康増進に関する施策の展開、情報提供等の役割を担う。

35. 国立明石病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成13年3月1日
 移譲先 明石市医師会
 移譲後の名称 明石市医師会立明石医療センター

区分	国立明石病院	明石医療センター
病床数	平成12年8月現在 210床(247床)[一般247]	平成13年3月現在 247床[一般247]
診療科	平成12年8月現在 内科、消化器科、循環器科、小児科、外科、 整形外科、脳神経外科、産婦人科、眼科、耳 鼻咽喉科、放射線科、麻酔科 (12科)	平成13年3月現在 内科、消化器科、循環器科、小児科、外科、 整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、産婦 人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科 (13科)
職員数	平成12年8月現在 152人 うち 医師 14人 看護職員 84人	平成13年3月現在 188人 うち 医師 25人 看護職員 100人
患者数	平成11年度一日平均 入院患者数 162.1人 外来患者数 295.1人	平成13年3月～平成13年8月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成11年度一月平均 93.7人	平成13年3月～平成13年8月一月平均

(注)国立明石病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

国立明石病院が担ってきた東播磨臨海医療圏域での中核的医療を維持し、地域住民の医療ニーズに応える。

1. 保健・医療・福祉の連携を強化した包括的医療を実践し、地域の医療需要に対応した運営を行う。
2. 循環器疾患を中心とした急性期医療の充実を図り、心肺停止症例にも対応できる、第二次救急医療を実施する。
3. 開業医も利用可能な開放型病床を開設し、地域医療の一翼を担う。
4. エイズ拠点病院の診療機能を引き継ぐとともに、周産期医療・未熟児医療の充実を図る。
5. 将来的には、明石市が設置する急病センターの委託を受け、小児救急医療を実践するとともに、在宅医療の充実を図るため、ホームヘルプステーション、訪問看護ステーションを併設する。

36. 国立療養所西小千谷病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成13年3月1日
 移譲先 社会福祉法人長岡福祉教会
 移譲後の名称 長岡福祉協会立小千谷さくら病院

区分	国立療養所西小千谷病院	小千谷さくら病院
病床数	平成12年現在 120床(140床)[一般140]	平成13年3月現在 170床[一般50、療養型病床群120] ※当初は60床[一般40床、療養型病床群20床]
診療科	平成12年現在 内科、神経内科、外科、リハビリテーション科 (4科)	平成13年3月現在 内科、心療内科、精神科、神経内科、整形外科、リハビリテーション科 (6科)
職員数	平成12年現在 78人 うち 医師 5人 看護職員 36人	平成13年3月現在 45人 うち 医師 3人 看護職員 23人
患者数	平成11年度一日平均 入院患者数 85.3人 外来患者数 28.0人	平成13年3月～平成13年8月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成11年度一月平均 2.6人	平成13年3月～平成13年8月一月平均

(注)国立療養所西小千谷病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

「自分なり、家族や親しい友人が必要としたときにかかりたい、受け入れてくれる」という長岡福祉協会設立の理念に基づき、地域住民の要望に応じて医療と福祉を実施する。

1. 近隣の基幹病院、診療所、かかりつけ医師、福祉施設等との連携を強化し、機能分担を図りながら、良質の医療を提供する。
2. 地域のリハビリテーション広報病院として、患者の社会復帰のための医療に力を入れる。
3. 高齢化社会に的確に対応するため、在宅医療や長期療養者への医療や介護保険制度下での諸サービスの提供を積極的に行う。
4. 地域の神経難病患者に対し、ニーズに応じた医療を行う。
5. 高齢化や社会の急激な変化に伴い、痴呆や精神不安を訴える患者が増大しており、これらの患者に適切に対応する。
6. 将来的には、社会福祉法人として関連する福祉施設を敷地内に新設していく。

37. 国立療養所足利病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成13年6月1日
 移譲先 社会福祉法人全国重症心身障害児（者）を守る会
 移譲後の名称 保健医療・福祉施設あしかがの森 あしかがの森足利病院

区分	国立療養所足利病院	あしかがの森足利病院
病床数	平成12年7月現在 215床(320床)[一般100、結核50] [重心120、一般160、結核40]	平成13年6月現在 240床[重心160、一般80] ※当初は200床[重心120、一般80]
診療科	平成12年7月現在 内科、小児科、外科、整形外科、放射線科 (5科)	平成13年6月現在 内科、小児科、外科、整形外科、リハビリテーション科、歯科 (6科)
職員数	平成12年7月現在 177人 うち 医師 9人 看護職員 98人 福祉職員 9人	平成13年6月現在 179人 うち 医師 10人 看護職員 96人 福祉職員 19人
患者数	平成11年度一日平均 入院患者数 182.1人 外来患者数 71.9人	平成13年6月～平成13年11月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成11年度一月平均 71.6人	平成13年6月～平成13年11月一月平均

(注)国立療養所足利病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

国立療養所足利病院の経営移譲を受け、同院が担ってきた機能を引き継ぎ、「保健医療・福祉施設あしかがの森」として設立し、地域の医療と福祉に寄与する。

1. 栃木県の「地域保健医療計画」及び「とちぎ障害者福祉プラン」との整合性を図りながら、社会的使命を果たす施設運営を行う。
2. 施設運営に当たっては、同会が掲げる「最も弱いものを一人ももれなく守る」等の三原則という基本方針に沿って行うものとし、利用者を主体に、職員と親（家族）及び地域の関係者が一体となって信頼と協力関係を構築し、行政関係諸機関と緊密な連携関係を持つ。
3. 経営移譲後は、重症心身障害児（者）病棟の新設・増床を計画し、積極的に超重症児の受け入れ強化に努めるなど入所機能の拡充を図るとともに、身体障害者療護施設（50名程度）を整備し、身体障害者サービスに取り組む。
4. 開かれた施設として、施設と地域の住民との交流を深め、積極的なボランティアの受入を図るとともに、その育成に努める。
5. 一般医療として、小児慢性疾患及び神経・筋疾患等の医療体制及び病床規模を引き続き実施する。
6. 両毛・県南地域の重症心身障害児（者）に対する医療・療育相談・福祉サービスを実施する。

38. 国立習志野病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成13年6月1日
 移譲先 社会福祉法人恩賜財団済生会支部千葉県済生会
 移譲後の名称 千葉県済生会習志野病院

区分	国立習志野病院	千葉県済生会習志野病院
病床数	平成13年5月現在 321床(400床)[一般400]	平成13年6月現在 400床[一般40] ※引継時は350床[一般350]
診療科	平成13年5月現在 内科、神経科(休診中)、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、(入院患者対応)、リハビリテーション科、放射線科、歯科(入院患者対応)、麻酔科 (19科)	平成13年6月現在 内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、麻酔科 (14科)
職員数	平成13年5月現在 281人 うち 医師 35人 看護職員 154人	平成13年6月現在 292人 うち 医師 33人 看護職員 160人
患者数	平成12年度一日平均 入院患者数 230.3人 外来患者数 634.0人	平成13年6月～平成13年11月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成12年度一月平均 250.5人	平成13年6月～平成13年11月一月平均

(注)国立習志野病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

社会福祉法人恩賜財団済生会支部千葉県済生会は、国立習志野病院の経営移譲を受け、船橋済生病院と統合し、両病院の診療機能を継続するとともに、担ってきた地域の中核的な病院としての機能を更に充実させ、地域の医療機関との密接な連携のもとに特色ある病院経営を目指す。

1. 地域との連携のもと、二次救急医療施設として中核的な役割を果たす。
2. 国立習志野病院及び船橋済生病院が現に指定を受けている医療（病院群輪番制病院、救急告示病院、療育医療、更生医療、療生医療等）を継続する。
3. 二次保健医療圏内における高額医療機器の共同利用、検査委託、症例研究、研修会、患者紹介を実施することにより、病診・病病連携の機能を強化する。
4. 県立等の看護師等養成施設における看護実習病院の核となるべく実習施設としての充実を図るとともに、保健・医療・福祉の専門的スタッフの養成、研究にあたる。
5. 船橋済生病院で実施している住民検診、人間ドック、健康教育等を継承し、地域住民に対する保健予防活動事業を行う。

39. 国立療養所畑賀病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成13年12月1日
 移譲先 広島市（広島市は病院運営を広島市医師会に管理委託）
 移譲後の名称 広島市医師会運営・安芸市民病院

区分	国立療養所畑賀病院	安芸市民病院
病床数	平成13年10月現在 70床（150床）〔一般150〕	平成13年12月現在 120床〔一般60、療養病床60〕 ※平成17年に緩和ケア20床を開設予定
診療科	平成13年10月現在 内科、呼吸器科、循環器科、外科、リハビリテーション科、歯科 (6科)	平成13年12月現在 内科、呼吸器科、循環器科、小児科、外科、リハビリテーション科 (6科)
職員数	平成13年10月現在 96人 うち 医師 9人 看護職員 42人	平成13年12月現在 86人 うち 医師 7人 看護職員 48人
患者数	平成12年度一日平均 入院患者数 66.4人 外来患者数 82.2人	平成13年12月～平成14年5月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成12年度一月平均 -	平成13年12月～平成14年5月一月平均

(注)国立療養所畑賀病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

広島市は、国立療養所畑賀病院の経営移譲を受け、広島市医師会運営・安芸市民病院を設立し、広島市東部の地域医療や救急機能、緩和ケアの役割が担えるよう医療機能を充実整備する。

1. 今後の高齢化に備え、長期、慢性期医療に対応できるよう療養病床を備え、急性期医療と慢性期医療を機能分化した病床を整備する。
2. 緩和ケアを行い、治癒不可能な疾患の終末期にあたる患者及び家庭の生活の質（QOL）の向上を図る。
3. 広島市東部の救急医療体制の充実、整備を図る。

40. 国立小浜病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成14年3月1日
 移譲先 小浜地区保健環境組合（病院運営を医療法人三佼会へ管理委託）
 移譲後の名称 公立新小浜病院

区分	国立小浜病院 経	公立新小浜病院
病床数	平成13年10月現在 150床(200床) [一般150、結核50] ※結核50床は休棟	平成14年3月現在 150床 [一般90、療養病床60]
診療科	平成13年10月現在 内科、小児科(休診中)、外科、整形外科、 リハビリテーション科、放射線科 (6科)	平成14年3月現在 内科、神経内科、呼吸器科、消化器科、循環 器科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓血 管外科、リハビリテーション科、放射線科 (11科)
職員数	平成13年10月現在 125人 うち 医師 10人 看護職員 68人	平成14年3月現在 120人 うち 医師 12人 看護職員 63人
患者数	平成12年度一日平均 入院患者数 99.4人 外来患者数 160.6人	平成14年3月～平成14年8月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成12年度一月平均 189.8人	平成14年3月～平成14年8月一月平均

(注)国立小浜病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

小浜地区保健環境組合は、国立小浜病院の経営移譲を受け公立新小浜病院を開設し、島原半島西部地域の中核病院としての役割を担い、地域住民の姓名と健康を守り、信頼される医療機関として地域住民の医療需要に対応し、公共的運営を目指す。

1. 救急告示病院として、地域の病院群輪番制に参画し、救急医療体制の充実を図る。
2. 総合リハビリテーション施設としての継承を受け、リハビリテーション医療の充実（温泉の有効利用）を図る。
3. 開設者、管理者、地域の保健・医療・福祉関係者及び行政で構成する協議会を設置し、地域の医療機関等との連携を図る。
4. 医療資源の有効活用及び地域医療機関との連携を促進し、開放病床と高度医療機器の共同利用を図る。

41. 国立療養所田川新生病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成14年3月1日
 移譲先 社会福祉法人柏芳会記念福祉事業会
 移譲後の名称 社会福祉法人柏芳会田川新生病院

区分	国立療養所田川新生病院	社会福祉法人柏芳会田川新生病院
病床数	平成13年10月現在 90床(90床) [一般90]	平成14年3月現在 90床[療養病床90]
診療科	平成13年10月現在 内科、呼吸器科、外科、整形外科 (4科)	平成14年3月現在 内科、整形外科 (2科)
職員数	平成13年10月現在 88人 うち 医師 5人 看護職員 45人	平成14年3月現在 61人 うち 医師 4人 看護職員 27人
患者数	平成12年度一日平均 入院患者数 52.5人 外来患者数 72.4人	平成14年3月～平成14年8月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成12年度一月平均 -	平成14年3月～平成14年8月一月平均

(注)国立療養所田川新生病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

社会福祉法人柏芳会記念福祉事業会は、国立療養所田川新生病院の経営移譲を受け、地域の包括的な保健・医療・福祉のニーズに応えるため、他の医療機関との連携により、特に急性期医療の後方病院として地域医療に寄与する。

1. 近隣の病院・診療所・福祉施設等との連携と機能分担を図り、高齢者を対象とした療養病床として運営する。
2. 地域の保健・医療・福祉に貢献するため、将来的には訪問看護、デイサービス及びグループホームの実施を検討する。

42. 国立療養所大湊病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成14年3月1日
 移譲先 一部事務組合下北医療センター（病院運営を下北医師会へ管理委託）
 移譲後の名称 一部事務組合下北医療センターむつりハビリテーション病院

区分	国立療養所大湊病院	むつりハビリテーション病院
病床数	平成13年10月現在 100床(150床) [一般100、結核50]	平成14年3月現在 120床[療養病床群120]
診療科	平成13年10月現在 内科、リハビリテーション科 (2科)	平成14年3月現在 内科、リハビリテーション科 (2科)
職員数	平成13年10月現在 82人 うち 医師 3人 看護職員 45人	平成14年3月現在 71人 うち 医師 3人 看護職員 28人
患者数	平成12年度一日平均 入院患者数 72.3人 外来患者数 34.5人	平成14年3月～平成14年8月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成12年度一月平均 -	平成14年3月～平成14年8月一月平均

(注)国立療養所大湊病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

一部事務組合下北医療センターは、国立療養所大湊病院の経営移譲を受け、一部事務組合下北医療センターむつりハビリテーション病院として設立し、地域住民の医療ニーズに応えられる良質な医療サービス提供し信頼される病院とする。

1. 慢性期医療、介護力を強化した医療の充実。
2. 医師を中心としたチーム医療の充実と在宅復帰の促進。
3. リハビリテーション医療（通所リハビリテーションを含む）の充実と在宅高齢者等の自立支援機能の強化。
4. 一部事務組合下北医療センターが開設する各病院、診療所及びかかりつけ医との密接な連携による、病診・病病連携体制の確立及び強化。

43. 国立横須賀病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成14年7月1日
 移譲先 横須賀市（病院運営を社団法人地域医療振興協会へ管理委託）
 移譲後の名称 横須賀市立うわまち病院

区分	国立横須賀病院	横須賀市立うわまち病院
病床数	平成13年10月現在 281床(350床)[一般334、結核16]	平成14年7月現在 350床[一般334、療養病床16] ※引継時は289床[一般273、療養病床16]
診療科	平成13年10月現在 内科、循環器科、小児科、外科、整形外科、 脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、 眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、歯科（入院患 者対応）、麻酔科 (14科)	平成14年7月現在 内科、精神科、循環器科、小児科、外科、整 形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産 婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔 科 (14科)
職員数	平成13年10月現在 266人 うち 医師 46人 看護職員 134人	平成14年7月現在 247人 うち 医師 48人 看護職員 118人
患者数	平成12年度一日平均 入院患者数 210.5人 外来患者数 482.0人	平成14年7月～平成14年12月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成12年度一月平均 317.6人	平成14年7月～平成14年12月一月平均

(注)国立横須賀病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

横須賀市は、国立横須賀病院の移譲を受け、横須賀・三浦医療圏域における公的病院としての使命を認識し、さらに横須賀市東部における地域医療の基幹的施設の役割が担えるよう医療機能を強化し、横須賀市立うわまち病院を開設し、病院運営については社団法人地域医療振興協会に管理委託する。

1. 国立横須賀病院が担ってきた病院群輪番制病院及び救急告示病院については、地域住民の要望に応えるべく機能の充実強化を図り引き続き実施するとともに、横須賀市が開設する救急医療センターへの医師派遣についても行う。
2. 高度医療に対応するため、MRI、ガンマカメラ、CT等、最新の医療機器を早期導入し、診断機能の充実を図る。
3. 高齢人口の増加に伴う心疾患、脳血管疾患に確実に対応するため、新たに理学療法士を配置しリハビリテーション医療を実施する。
4. 良質な医療を提供するため、専任職員による相談室を設置し、保健・医療・福祉との連携を図りながら複雑化、多様化する医療相談に対応する。

44. 国立熱海病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成14年7月1日
 移譲先 学校法人国際医療福祉大学
 移譲後の名称 学校法人国際医療福祉大学附属熱海病院

区分	国立熱海病院	国際医療福祉大学附属熱海病院
病床数	平成13年10月現在 168床(293床)[一般265、感染症2 [一般265、感染症28]	平成14年7月現在 265床[一般261、感染床4] ※当初は268床[一般168]
診療科	平成13年10月現在 内科、消化器科、循環器科、小児科、外科、 整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼 科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放 射線科、麻酔科 (14科)	平成14年7月現在 内科、神経内科、消化器科、循環器科、小児 科、外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産 婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテー ション科、放射線科、麻酔科 (15科)
職員数	平成13年10月現在 148人 うち 医師 10人 看護職員 73人	平成14年7月現在 194人 うち 医師 30人 看護職員 95人
患者数	平成12年度一日平均 入院患者数 80.5人 外来患者数 293.1人	平成14年7月～平成14年12月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成12年度一月平均 104.4人	平成14年7月～平成14年12月一月平均

(注)国立熱海病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

学校法人国際医療福祉大学は、国立熱海病院の経営移譲を受け学校法人国際医療福祉大学附属熱海病院を開設し、附属医療機関として運営する。「大学附属」を冠した病院として相応しい内容を備えた地域の基幹病院を目指す。

1. 教員・学生等による実践的な教育研究を行いうる臨床研究実施施設としての「大学附属病院」にとどまらず、高い評価を受けている本学の特色あるリハビリテーション及び本学グループ医療機関が有する豊富な経験、実績、最新の情報などを活かし、「大学附属病院」として、緊急時への対応も含め、急性期医療及び慢性期医療への十分な体制を整える方針である。
2. 将来的に、温泉のある熱海という地の利を最大限に活かしたりハビリテーションや介護の体制を整備し、全国のリハビリテーション専門化(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など)も集まるような、看護から介護まで提供できる質の高い医療機関を目指す。
3. 地域に信頼され、支えられる高度な中核的医療機関を目指すことが、経営移譲を受ける本学の使命と捉えており、引受にあたっては、それに相応しい人材を配備し、施設や設備を整備する考え。

45. 国立療養所日南病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成14年7月1日
 移譲先 社会福祉法人愛泉会
 移譲後の名称 社会福祉法人愛泉会日南病院

区分	国立療養所日南病院	社会福祉法人愛泉会日南病院
病床数	平成13年10月現在 132床(130床) [一般60、重心80、結核80]	平成14年7月現在 140床[一般60、重心80]
診療科	平成13年10月現在 内科 (1科)	平成14年7月現在 内科、神経内科、整形外科、リハビリテーション科 (4科)
職員数	平成13年10月現在 126人 うち 医師 5人 看護職員 70人	平成14年7月現在 124人 うち 医師 10人 看護職員 70人
患者数	平成12年度一日平均 入院患者数 124.6人 外来患者数 65.8人	平成14年7月～平成14年12月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成12年度一月平均 —	平成14年7月～平成14年12月一月平均

(注)国立療養所日南病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

社会福祉法人愛泉会は、国立療養所日南病院の経営移譲を受け、同院が担ってきた機能を引き継ぎ、「社会福祉法人愛泉会日南病院」として設立し、地域の医療と福祉に寄与する。

1. 重度心身障害児(者)の医療体制及び病床規模を引き継ぐ。
2. 主として「神経・筋疾患、呼吸器疾患」にかかる医療を提供する。
3. 宮崎県の県南地区を中心とした重度心身障害児(者)に対する医療・療育相談、福祉サービスを実施する。

46. 国立療養所小樽病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成14年10月1日
 移譲先 社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道済生会
 移譲後の名称 北海道済生会西小樽病院

区分	国立療養所小樽病院	北海道済生会西小樽病院
病床数	平成13年10月現在 220床(340床) [一般100、重心120、結核120]	平成14年10月現在 220床[重心120、療養100]
診療科	平成13年10月現在 内科、小児科、外科 (3科)	平成14年10月現在 内科、小児科、リハビリテーション科 (3科)
職員数	平成13年10月現在 195人 うち 医師 8人 看護職員 104人	平成14年10月現在 175人 うち 医師 10人 看護職員 90人
患者数	平成12年度一日平均 入院患者数 170.6人 外来患者数 8.9人	平成14年10月～平成15年3月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成12年度一月平均 -	平成14年10月～平成15年3月一月平均

(注)国立療養所小樽病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道済生会は、国立療養所小樽病院の経営移譲を受け、北海道済生会西小樽病院として開設し、重度心身障害児(者)の療育を継承するとともに、高齢者社会における小樽・後志地区の実態に対応するため、一般病床を療育病床(長期療養型)に転換し、回復期・慢性期の医療を主体として運営する。

1. 重度心身障害児(者)のための充実した療育の提供。
2. 慢性疾患、成人病等で増えつつある長期入院患者のため、長期療養型の療養病床を設置し、脳血管障害後遺症及び大腿骨頸部骨折後等、その他長期療養を必要とする患者の受け入れ。
3. 早期社会復帰を目指したリハビリテーション医療の充実。
4. 支部北海道済生会の運営する小樽北生病院、介護老人保健施設“はまなす”、訪問看護ステーション及び在宅看護ステーション及び在宅支援センターはまなす等との保健・医療・福祉の連携体制の確立。

47. 国立療養所青森病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成14年12月1日（病院開設は平成15年12月1日）
 移譲先 社会福祉法人敬仁会
 移譲後の名称 社会福祉法人敬仁会青森敬仁会病院

区分	国立療養所青森病院	青森敬仁会病院
病床数	平成14年11月現在 70床(150床) [一般150]	平成15年12月現在 120床[一般60、療養病床60] ※平成17年に緩和ケア20床を開設予定
診療科	平成14年11月現在 内科、呼吸器科、循環器科、外科、リハビリテーション科、歯科 (6科)	平成15年12月現在 内科、呼吸器科、循環器科、小児科、外科、リハビリテーション科 (6科)
職員数	平成14年11月現在 うち 医師 8人 看護職員 57人	平成15年12月現在 うち 医師 4人 看護職員 60人
患者数	平成13年度一日平均 入院患者数 81.0人 外来患者数 47.1人	平成15年12月～平成16年5月一日平均 入院患者数 99.4人 外来患者数 18.0人
救急取扱数	平成13年度一月平均 16.0人	平成15年12月～平成16年5月一月平均 13.0人

(注)国立療養所青森病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

48. 国立療養所高山病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成14年12月1日
 移譲先 岐阜県厚生農業共同組合連合会
 移譲後の名称 高山厚生病院

区分	国立療養所高山病院	高山厚生病院
病床数	平成14年11月現在 70床(150床)[一般150]	平成15年12月現在 120床[一般60、療養病床60] ※平成17年に緩和ケア20床を開設予定
診療科	平成14年11月現在 内科、呼吸器科、循環器科、外科、リハビリテーション科、歯科 (6科)	平成15年12月現在 内科、呼吸器科、循環器科、小児科、外科、リハビリテーション科 (6科)
職員数	平成14年11月現在 うち 医師 看護職員	平成15年12月現在 うち 医師 看護職員
患者数	平成13年度一日平均 入院患者数 88.3人 外来患者数 7.0人	平成15年12月～平成16年5月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成13年度一月平均	平成15年12月～平成16年5月一月平均

(注)国立療養所高山病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

49. 国立渋川病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成15年3月1日
 移譲先 渋川地区医療事務組合
 移譲後の名称 渋川総合病院

区分	国立渋川病院	渋川総合病院
病床数	平成15年2月現在 100床(150床) [一般100、結核50]	平成15年3月現在 120床[療養病床群120]
診療科	平成15年2月現在 内科、リハビリテーション科 (2科)	平成15年3月現在 内科、リハビリテーション科 (2科)
職員数	平成15年2月現在 うち 医師 11人 看護職員 45人	平成15年3月現在 うち 医師 11人 看護職員 38人
患者数	平成13年度一日平均 入院患者数 88.3人 外来患者数 152.4人	平成15年度一日平均 入院患者数 72.4人 外来患者数 198.8人
救急取扱数	平成13年度一月平均 40.3人	平成15年度一日平均 55.5人

(注)国立渋川病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

50. 国立療養所稚内病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成15年3月1日
 移譲先 稚内市
 移譲後の名称 稚内市立稚内こまどり病院

区分	国立療養所稚内病院	稚内市立稚内こまどり病院
病床数	平成15年2月現在 100床(150床) [一般100、結核50]	平成15年3月現在 120床[療養病床群120]
診療科	平成15年2月現在 内科、リハビリテーション科 (2科)	平成15年3月現在 内科、リハビリテーション科 (2科)
職員数	平成15年2月現在 うち 医師 1人 看護職員 12人	平成15年3月現在 うち 医師 3人 看護職員 22人
患者数	平成13年度一日平均 入院患者数 8.0人 外来患者数 15.0人	平成15年3月～平成15年8月一日平均 入院患者数 18.8人 外来患者数 12.2人
救急取扱数	平成13年度一月平均 0人	平成15年3月～平成15年8月一月平均 0人

(注)国立療養所稚内病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

51. 国立療養所美幌病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成15年3月1日
 移譲先 社会福祉法人北海道療育園
 移譲後の名称 社会福祉法人北海道療育園美幌療育病院

区 分	国立療養所美幌病院	北海道療育園美幌療育病院
病 床 数	平成15年2月現在 100床(150床) [一般100、結核50]	平成15年3月現在 120床[療養病床群120]
診 療 科	平成15年2月現在 内科、リハビリテーション科 (2科)	平成15年3月現在 内科、リハビリテーション科 (2科)
職 員 数	平成15年2月現在 うち 医師 看護職員	平成15年3月現在 うち 医師 看護職員
患 者 数	平成13年度一日平均 入院患者数 69.8人 外来患者数 64.3人	平成15年3月～平成15年8月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成13年度一月平均	平成15年3月～平成15年8月一月平均

(注)国立療養所美幌病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。